園だより

令和元年６月１日

社会福祉法人　新田保育園
園長　野村陽子

前日までの雨もすっかりあがった５月２２日、今年も５歳児ぞうぐみの子どもたちは、２泊３日の飯能合宿に出発しました。近年多発している自然災害に加え、連日のように報道される痛ましい事故。いつも以上に緊張を抱えながらの合宿でした。けれども３日間、保護者の下を離れた子どもたちと一緒に過ごす中で、日常の保育の大切さに改めて気づくことができました。

１日目の山登り。「ねえ、なんでやまのぼりなのに、こんなにおりるの？」と疑問をぶつけてくる子どもたち。確かに、頂上に到着していないのに長い下り道を進んでいた時のことでした。また、夜のキャンプファイヤーの炎を見ながら「なんでひのこは、そらまでいかないで、とちゅうできえちゃうの？」と呟いた子がいました。何で？どうして？知りたい！という子どもたちの知的好奇心が、いつもとは違う環境の中で、むくむくと大きくなっていると感じました。

２日目の川遊びでは、協力してアメンボ捕りをする姿がありました。誰かが「あそこ！いた！」と叫ぶと、「どこ！」と網を持って友達が駆けつけます。一人で上手く捕まえられない時は「ぼくこっちからいくから、そっちからもおねがい」と挟み撃ち作戦。「つかまえた！」と言えば、どこからともなく水の入った虫かごを抱えて誰かが走ってくるのです。普段の遊びの中でも、何となく役割分担があるものです。それは互いの得手不得手や気持ちを、ある程度理解し合っているからなのです。

２日目の夜は、懐中電灯の灯りのみを頼りに絵本の登場人物『まるぼ』に会いに行きました。一人ずつ、ドキドキしながら暗闇をかき分けて進みます。でも中には足がすくんだり、泣いたりする子もいます。既に会いに行った子は「だいじょうぶ。かわいかったよ！」「とちゅうまで（懐中電灯で）てらしてあげようか？」と声を掛け励まします。それは、足がすくんでいる子も泣いている子も、本当は会いに行きたい気持ちがあることを知っているからです。そして会いに行ったという喜びを、友達と共感したいのです。

ぞうぐみ合宿を経て、急に何か変化があるわけではありません。普段とは違う環境だからこそ、毎日の積み重ねが発揮されるのです。意欲に好奇心、生活力、そして集団力。子どもたちの『知恵と勇気と優しさ』が存分に発揮できるぞうぐみ合宿は、新田保育園の保育が凝縮されたものだと思います。それは職員も同様で、日常の保育やチームワークが試されます。当日までの準備、２泊３日の中で起こる様々なことにも、引率者のみならず職員全員で連携し乗り越えます。つまりぞうぐみ合宿は、ぞうぐみの子どもたちだけでなく、園の子どもたちや保護者の皆様、職員によって成り立っています。この合宿が、少しでも子どもたちの『生きる力』になれば、こんなに嬉しいことはありません。　　（文責：斉藤）

★今年度から誕生会の日に合わせて写真の日を設けています。誕生会の様子だけでなく、同時に日常の様子の撮影も行います。年間を通して均等に撮影できるよう依頼しているため、月により生活写真のないクラスもありますがご了承ください。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
６月				健康体育		避難訓練	父母会運営会議				誕生会・写真の日			えりなお姉さんダンス	幼児保育参観（３・４・５歳児）				健診（０・４歳児）									りすぐみ合宿→		